

宮城県民会館及び宮城県民間非営利活動プラザの集約・複合化事業に係る大規模事業評価について

○対象事業名

宮城県民会館及び宮城県民間非営利活動プラザの集約・複合化事業

○事業の概要

仙台医療センター跡地に、宮城県民会館及び宮城県民間非営利活動プラザの集約・複合化施設を整備し、両施設が抱える老朽化などの課題を解消するとともに、利用者間の交流や事業の連携などを通して、両施設のこれまでの取組を更に発展・強化するもの。



○事業の内容

予定地	仙台医療センター跡地（仙台市宮城野区宮城野二丁目地内）	
敷地面積	54,530.31㎡	
事業規模	延床面積	22,200㎡
	うちホール部門	8,000㎡
	うち民間非営利活動部門	600㎡
	うち創造・育成・連携拠点部門	4,700㎡
	うち交流・コミュニティ部門	2,800㎡
	うち管理運営部門	6,100㎡

○事業費

総事業費	58,614.3百万円
うち初期建設費	25,339.1百万円
うち維持管理費	33,275.2百万円（維持管理期間30年）

○事業スケジュール

令和3年度	大規模事業評価 プロポーザル方式による設計事業候補者選定
令和4～6年度	基本・実施設計
令和7～10年度	建築工事
令和10年度中	供用開始予定（開館）

○評価の概要

(評価結果) 事業の実施は適切と判断。

(判断理由)

- 本県の文化芸術及びNPO活動の更なる振興を図るとともに、施設規模の適正化や運営効率化を図るためには、事業の実施は必要である。
- 本県の文化芸術及びNPO活動を促進するとともに、県内市町村が求める支援に対応するためには、県が事業主体であることが適切である。
- 施設の老朽化に起因する課題を解消し、本県の文化芸術及びNPO活動の拠点施設としての機能を更に発揮するためには、早急な対応が必要であり、事業の時期は適当である。
- PFI方式を採用することによる財政的なメリットを見いだすことはできない。実際の利用者等から意見を聴取し、施設の仕様の精度を上げていくというプロセスを繰り返しながら作業を進める必要があることから、性能発注であるPFI手法の効果は発揮されにくい。
⇒ 従来方式で整備を行うことが適切である。
- 整備予定地は、広域的なアクセス性が高いなどの特徴を有しており、多くの県民や県外からの来訪者が見込まれることから、適切である。
- 事業の実施により、「老朽化の解消及び機能性の向上」、「集約・複合化による施設規模の適正化」、「両施設が連携した事業を展開することによる相乗効果」が期待されることから、効果的である。
- 本事業は環境評価条例の対象とはならず、また、騒音、振動及び渋滞等については設計時の配慮により対応可能であり、環境への影響は少ないと考える。
- 現時点で、特段の事業リスクは想定されない。

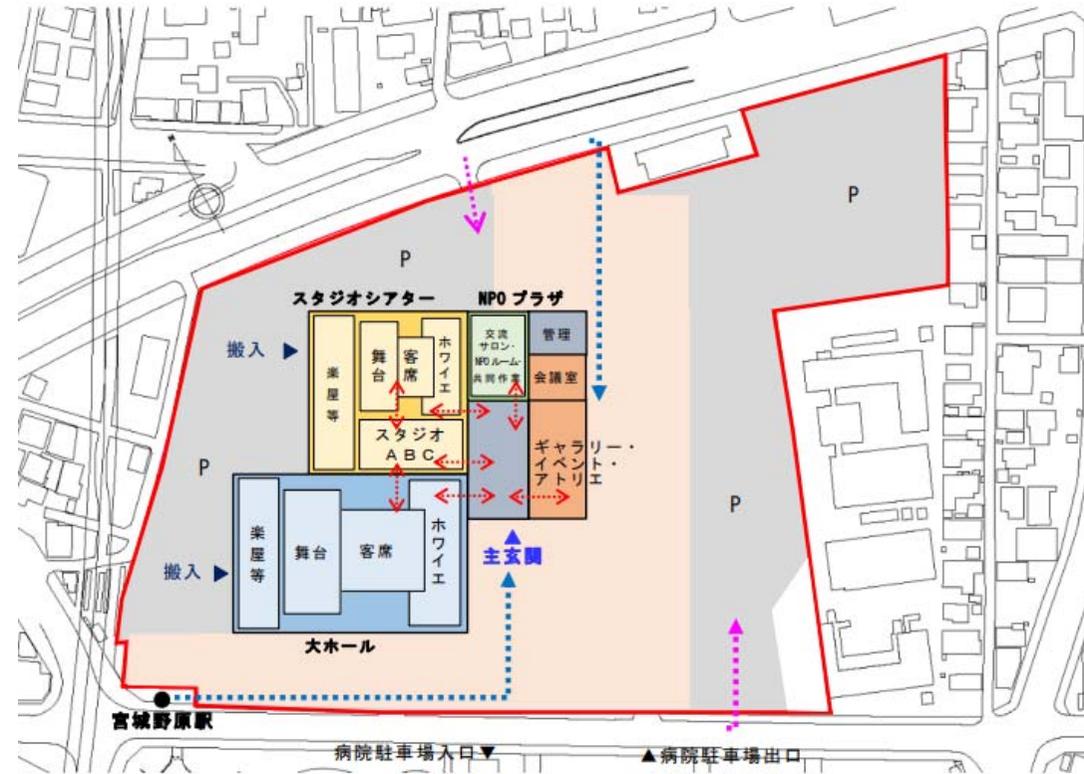
宮城県民会館及び宮城県民間非営利活動プラザの集約・複合化事業に係る大規模事業評価について

<事業予定地（仙台医療センター跡地）>

○現況写真



○活用イメージ



※ 「仙台医療センター跡地における県有施設の再編に向けた基本構想」
に掲げる複数案のうち一例